

2010年(平成22年)3月3日 水曜日

# 岐阜

コンティグ・アイ

バイオエタノール事業で

## 中国に酵素と技術提供

台湾企業。プラント向け

環境ベンチャー、コンティグ・アイ(本社岐阜市正木631の7、鈴木繁三社長、電話058・294・8091)は、バイオエタノール事業で中国へ進出する。台湾でヒートパイプ製造などを手掛ける業強が、今春から中国で開始するバイオエタノール事業に、コンティグ・アイのノウハウと酵素を供給する。業強は2年以内に処理能力が日量25トンのプラントを中国全土に20基設置する計画。コンティグ・アイでは、酵素販売だけで年間7億円の売り上げを見込む。

(岐阜・片桐芳樹)



台湾・台北で開かれた記者会見で鈴木社長(左)ら

バイオエタノール事業25トンのプラントの設置業は、岐阜大学応用生物科学部の高見澤一裕教授の研究シーズを活用。ゴルフ場などの刈り草や雑草に含まれるセルロース類からエタノールを生産するもの。業強は、コンティグ・アイが開発したバイオエタノール製造技術の中国における代理権を取得。3月末までに処理能力が日量100トンの実証プラントを導入し、その後、順次、

鈴木社長は「当社技術の海外進出は初。小さな一歩でも重要。バイオエタノール事業で、世界にインパクトを与えたい」と話している。コンティグ・アイは03年に設立。岐阜大学発の環境ベンチャー。土壌・地下水汚染の修復事業や、受託研究などを手掛ける。